

第4章 プロジェクトの妥当性の検証

第4章 プロジェクトの妥当性の検証

4-1 プロジェクトの効果

(1) 直接効果

本プロジェクトの実施により、対象校では、モ国にそった1教室当り36人での授業が2シフト以下(1教室当り36人)で実施可能となり、過密の緩和が達成され、より適切な学習環境が整備される。

既存7校では2000年時点で93.07人/教室だった生徒数が、2005年(目標年度)には59.10人/教室まで減少する。同7校では、プロジェクトが実施されない場合、1教室当りの生徒数が117.62人/教室にまで増加することが予想されている。ゲル地区の新設校3校では、2005年の修学予定者数2,816人を収容する44教室が建設され、今まで長時間をかけて遠くの学校に通学していた児童に対しては、よりアクセスしやすい教育機会を提供する。(表4.1参照)さらに、このような生徒が現在通学している対象校以外の都市部の学校においても、教室の過密緩和が見込まれる。

表4-1 一教室当り生徒数の比較

学校名	2000年			2005年				
	就学者数	既存 教室数	1教室当 り生徒数	予定就学者数	計画+既存 教室数	1教室当り生徒数 (計画なし)	1教室当り生 徒数 (計画あり)	
ダルク・オホ	4	850	0 <14>	— 《60.71》	1,330	21	—	63.33
	11	339	4 <10>	84.75 《33.90》	652	13	163.00	50.15
	D-od	107	0 <2>	— 《53.5》	387	8	—	48.38
オルホン	2	709	9 <14>	78.78 《50.64》	694	13	77.11	53.38
	3	2,893	29	99.76	3,023	45	104.24	67.18
	6	622	6	103.67	711	12	118.50	59.25
	7	787	8 <14>	98.38 《56.21》	1,002	17	125.25	58.94
	16	—	—	—	1,329	20	—	66.45
	17	—	—	—	793	12	—	66.08
	18	—	—	—	694	12	—	57.83
合計/平均	6,307	56 <89>	93.07 《65.48》	10,615	173	117.62	59.10	

注1: 2000年の下段は、継続使用不能等により、計画教室数算定の際に除外した既存教室を含んだ数値

注2: オルホン11学校は小教室で1教室20人収容あるが、計算に含み算出

(2) 間接効果

ゲル住宅地区は、都市への流入人口を収容するために急速に広まった地区であるため、インフラや公共施設等の都市基盤が極めて貧弱である。そのため地域住民のコミュニティー活動のための施設がなく、屋外で集会等が行われることも少なくない。特にオルホン県で新設される3校は、そういったゲル地区の数少ない公共施設のひとつとなるため、両親やPTA等の学校関係者のみならず、地域社会のコミュニティーの核として活用されることが期待される。さらにノンフォーマル教育のための施設としても活用が期待される。

4-2 課題・提言

(1) 新設校3校における施設整備

本プロジェクトにおいては、新設校の場合にも教室、教員室及び便所のみを協力対象とする。しかしながら、新設校において適切な学校運営を行うためには、本プロジェクトのコンポーネント以外にも体育館、特別教室、図書室、校長室等の施設整備が必要となる。これらの施設がモ国側の自助努力によって速やかに整備され、学校の機能を支障なく備えた形で学校運営が行われることが望まれる。

(2) 生徒数の急激な増加の可能性

現在導入が検討されている就学年齢引き下げに関し、MOSTEC は具体的には 2005 年までに都市部の 7 歳児入学の 100% 実施を目標としており、都市部に位置する本プロジェクトの対象校における 7 歳児入学の早期実現の可能性は極めて高い。本プロジェクトにおける必要教室数の算出では、2004 年までに 7 歳児入学が実施される事を前提とし、収容生徒数に不足が生じないよう配慮した。しかしながら、ダルハン・オール県及びオルホン県が 6 歳児入学を他県に先駆けて実施する可能性も高く、さらに初等中等教育期間が現行の 8 年間から 9 年間に延長されることも検討されている。MOSTEC は学制を国際的な標準にあわせることを急務と考えており、都市部においては近い将来、学制の変更に進む可能性は充分にある。しかし、受入れ態勢の整わないまま学制の変更が行われた場合、再度教室の不足が深刻化することが予想される。制度の変更のみが先行されることなく、施設の拡充に合わせた実施が望まれる。

また都市部への人口集中に伴って初等中等学校の生徒数は著しい増加傾向にあり、今後とも持続するものと考えられる。学制の変更による増加と合わせ生徒数増加に対応した教室建設がなされない限り、教室数の不足はさらに深刻なものとなるため、自助努力に加え我が国を含めた海外援助により、継続的な施設建設の実施が求められる。

(3) 学校の選択基準

都市部における生徒数過密の主な理由は、前述のように都市近郊部における絶対的な学校及び教室不足から生じる、通学区外生徒の越境入学である。だがこれ以外にも、都市部の公立学校の中に存在する「進学校」、あるいは施設や教員の質の良さが学校の選択基準となることが多く、これを禁じる明確な規則もないため、特定の学校の過密化を招く要因のひとつとなっている。しかしながら、本プロジェクトでは「生徒は居住学区にある学校に通う」ことを前提としており、こうした学校の存在が対象校、あるいは対象地域における初等中等学校の過密の緩和を目指す本プロジェクトの目標に影響を与える可能性も考えられる。

これを解消するには行政が学区を厳格に守ることが基本であり、学校側に定員以上の生徒を受け入れさせないことを徹底させなければならない。

4-3 プロジェクトの妥当性

本プロジェクトは、4-1に記した効果が期待でき、また以下の理由により我が国の無償資金協力による協力事業の実施が妥当であると判断される。

- ① プロジェクト目標が、対象地域（ダルハン・オール県及びオルホン県）の初等中等教育における過密の緩和と学習環境の改善を目標としており、ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）、教育および人造りといった、我が国の無償資金協力の目的に合致する。
- ② 上述のプロジェクト目標が、モ国国家計画である「21世紀へのモンゴル行動計画」、「教育法」及び「教育分野改革基本法」の方針に合致するものである。
- ③ プロジェクトの裨益対象を8,424人の初等中等学校生徒及び教員とし、かつ人口流入による学齢人口増加が著しい都市部を有する、ダルハン・オール県（人口9万人）及びオルホン県（人口8万人）を対象地域としている。
- ④ プロジェクト対象が公立の初等中等学校であり、MOSTEC、県、学校関係者の参加を含む労働力・技術により、施設の運営維持管理が可能である。
- ⑤ 本プロジェクトは、長期的かつマクロ的な意味においての費用対効果は期待できるものの、プロジェクト実施に伴う収益性を有さない。
- ⑥ プロジェクト実施に伴う環境に対する負の影響がほとんどない。
- ⑦ 我が国の無償資金協力のスキームにおいて、特段の困難なくプロジェクト実施が可能である。

4-4 結論

本プロジェクトは、前述のように多大な効果が期待されると同時に、広く住民のBHNの向上に寄与するものであることから、対象事業の一部に対して我が国の無償資金協力を実施することに妥当性が確認される。さらに、本プロジェクトの運営・維持管理についても相手国側体制は人員・資金ともに十分で問題ないと考えられる。

資料

1. 調査団氏名

基本設計調査団（平成 13 年 6 月 12 日～平成 13 年 7 月 11 日）

1. 総括	伊藤 富章	国際協力事業団調達部契約一課
2. 計画管理	鹿野 綾	国際協力事業団無償資金協力部監理課
3. 業務主任／建築計画	占部 眞一	株式会社毛利建築設計事務所
4. 教育計画／社会環境 I	村山 哲也	株式会社毛利建築設計事務所
5. 施設計画 I	道川 久文	株式会社毛利建築設計事務所
6. 施設計画 II	稲垣 隆太	株式会社横河建築設計事務所
7. 設備計画	稲垣 豊	株式会社毛利建築設計事務所
8. 施工調達計画／積算	一番ヶ瀬佳昭	株式会社毛利建築設計事務所
9. モンゴル語通訳	半田 敏幸	株式会社横河建築設計事務所
10. 業務調整	小泉 一七	株式会社毛利建築設計事務所
11. 自社補強	小林 哲也	株式会社毛利建築設計事務所

基本設計概要説明調査団（平成 13 年 11 月 5 日～平成 13 年 11 月 14 日）

1. 総括	二村 昌治	国際協力事業団調達部契約一課
2. 計画管理	鹿野 綾	国際協力事業団無償資金協力部監理課
3. 業務主任／建築計画	占部 眞一	株式会社毛利建築設計事務所
4. 施設計画 I	道川 久文	株式会社毛利建築設計事務所
5. 施工調達計画／積算	一番ヶ瀬佳昭	株式会社毛利建築設計事務所
6. モンゴル語通訳	半田 敏幸	株式会社横河建築設計事務所

2. 調査行程

2-1 基本設計調査

No.	月日	曜日	調査内容			
			官団員	コンサルタント		
1	6月12日	火	成田発			
2	6月13日	水	大使館、JICA、財務省、外務省、UNICEF、ADB表敬			
3	6月14日	木	科学教育省協議			
4	6月15日	金	1次計画学校視察、ダムハムへ移動、ダムハムオール県表敬・協議、校長説明会			
5	6月16日	土	計画対象サレ調査			
6	6月17日	日	オホソク県へ移動、オホソク県表敬			
7	6月18日	月	オホソク県協議、校長説明会、計画対象サレ調査			
8	6月19日	火	ウランバートルへ移動			
9	6月20日	水	ミッツ協議			
10	6月21日	木	ミッツ協議			
11	6月22日	金	ミッツ署名、JICA・大使館報告			ダムハム・オール県へ移動
12	6月23日	土	ウランバートル→関空	ダムハム・オール県へ移動	オホソク県へ移動	団内協議
13	6月24日	日	資料整理			
14	6月25日	月		住民集会 D-16(Jiguur), Od	サレ調査 O-7.5	サレ調査D-4, 11
15	6月26日	火		県各局調査	住民集会 D-4, D-9	同上 O-4, 16
16	6月27日	水		オホソク県へ移動 建築局調査	住民集会 D-11 オホソク県へ移動	同上 O-6, 17
17	6月28日	木		暖房局調査 上下水道局調査	県協議、住民集会O-6	同上 O-11, 3
18	6月29日	金		消防局調査 電力局調査	住民集会 O-5, 11	同上 O-2, 18
19	6月30日	土		ウランバートルへ移動	同上 O-2	団内協議
20	7月1日	日	資料整理			
21	7月2日	月		科学教育省協議/設備 関連調査	住民集会 O-3, 7	補足サレ調査(オホソク県) 補足サレ調査 (ダムハム・オール県)
22	7月3日	火		同上	同上 O-4, 16	同上
23	7月4日	水		同上	同上 O-17, 18	県協議 現地再委託(自然条件調査)業務
24	7月5日	木		同上	ウランバートルへ移動	同上
25	7月6日	金		同上		積算・施工関連資料 調査 現地コンサルタント打合せ
26	7月7日	土		団内協議	上海へ移動	団内協議
27	7月8日	日		資料整理	資料整理	資料整理
28	7月9日	月		科学教育省最終協議	積算・施工関連関連 第3国調査	現地再委託契約
29	7月10日	火		大使館JICA報告	同上	補足情報収集
30	7月11日	水		ウランバートル→関空	上海→成田	ウランバートル→関空

2-2 基本設計概要説明調査

No.	月日	曜日	調査内容		
			官団員	コンサルタント	
1	11月5日	月	東京ー北京		
2	11月6日	火	北京ーウランバートル、日本大使館及びJICA事務所表敬及び協議		
3	11月7日	水	財務経済省及び科学教育省表敬、科学教育省協議	教材調査	
4	11月8日	木	科学教育省／両県合同会議	財務経済省、国税庁協議	
5	11月9日	金	第1次学校視察(両県関係者同行)、ミッツ署名	基準局協議	市場調査・教材調査
6	11月10日	土	国内協議		
7	11月11日	日	国内協議		
8	11月12日	月	財務経済省及び科学教育省打合せ	基準局協議	市場調査・教材調査
9	11月13日	火	日本大使館、JICA事務所への報告	同上	同上
10	11月14日	水	ウランバートルー北京、北京ー成田		

3. 関係者（面会者）リスト

Ministry of Education, Culture and Science

Mr. ERDENESUREN Baatar	Vice Minister
Mr. GANSUKH Purevjav	Director, Economic-Monitoring and Assessment Department
Mr. BATJARGAL Ayush	Deputy Director, Economic-Monitoring and Assessment Department
Mr. N. Ayurzana	Economic-Monitoring and Assessment Department
Ms. BATZAYA Tsedev	International Cooperation Department
Mr. KITAO Yoshinobu	Education Policy Advisor
Ms. B. Oyunaa	Coordinator, MOSTEC-ADB ESDP
Mr. Chimedtseren	Public Administration Cooperation Department

Ministry of Foreign Affairs

Mr. GULGOU Jantsan	Deputy Director, Asia and America Department
Mr. DAVAAJARGAL Lundaa	Asia and America Department

Ministry of Finance and Economy

Mr. KHOSBAYAR Amarsaikhan	Department of Economic Cooperation Management and Cooperation
Ms. CHULUUN Luvsanbaldan	Department of Economic Cooperation Management and Cooperation
Mr. NASANBUYAN Lodoidamba	Department of Economic Cooperation Management and Cooperation

Darkhan-Uul Aimag

Mr. KHAYANKHIRVAA Damdin	Governor, Mayor of Darkhan City
Mr. BATSUKH Devee	Vice Governor
Mr. Gunchin	Chairman, Aimag Assembly
Mr. GAMBAT	Director, Urban Planning Department
Mr. Batjargal	Director, Social Development Policy Department
Mr. AMAGALAN	Education and Culture Center
Mr. Denjin	Social Development Policy Department

Orkhon Aimag

Mr. DAULETBAI Kaseni	Governor, Mayor of Erdenet City
Mr. D. Oyunbat	Vice Governor
Mr. G. Dugeree	Vice Mayor
Mr. G ANBOLD Huusin	Chief Officer, Governor's Office
Ms. Ts. Ariunaa	Director, Social Development Policy Department
Mr. P. Lkhagwasuren	Director, Industry, Agriculture and Environment Department
Mr. A. Dembererin	Education and Culture Center
Mr. GANBOLD Ishvaanjil	Chief Architect
Ms. D. Enkhtuya	Education Officer, Social Development Policy Department
Mr. B. Altankhuyag	Land Officer

Ministry of Environment

Mr. TSUBOUCHI Toshinori	JICA Expert
Mr. Sodnom	Department of Information, Monitoring and Assessment

Darkhan Metallurgical Kombinat

Mr. FUJIMOTO Yasushi	JICA Expert
----------------------	-------------

UNICEF

Ms. Gabriella De Vita	Assistant Representative
-----------------------	--------------------------

Embassy of Japan

Mr. FUKAZAWA Hiroshi	First Secretary
----------------------	-----------------

JICA Mongolia Office

Mr. MATSUMOTO Kenji	Resident Representative
Mr. YAMADA Akira	Resident Assistant Representative

4. 当該国の社会経済状況

モンゴル国
Mongolia

一般指標				
政体	共和制	*1	首都	ウランバートル (Ulan Bator) *2
元首	大統領/ナツァギーン・バカバンディ	*1,3	主要都市名	ダルハン *3
独立年月日	1921年7月11日	*3,4	労働力総計	1,182千人 (1999年) *6
主要民族/部族名	モンゴル人95%、カザフ系など	*1,3	義務教育年数	8年間 (年) *13
主要言語	モンゴル語	*1,3	初等教育就学率	88.4% (1997年) *6
宗教	チベット仏教(ラマ教)等	*1,3	中等教育就学率	56.2% (1997年) *6
国連加盟年	1961年10月27日	*12	成人非識字率	0.7% (2000年) *13
世銀加盟年	1991年2月14日	*7	人口密度	1.52人/km2 (1999年) *6
IMF加盟年	1991年2月14日	*7	人口増加率	1.9% (1980-99年) *6
国土面積	1,566.50千km2	*1,6	平均寿命	平均 62.50 男 60.50 女 64.50 *10
総人口	2,378千人 (1999年)	*6	5歳児未満死亡率	73 (1999年) *6
			カロリー供給量	1,917.0 cal/日/人 (1997年) *10

経済指標				
通貨単位	ツグrik(Tugrik)	*3	貿易量	(1999年)
為替レート	1 US \$ = 1,078.00 (2001年12月)	*8	商品輸出	454.3百万ドル *15
会計年度	Dec. 31	*6	商品輸入	-510.7百万ドル *15
国家予算	(1998年)		輸入カバー率	2.5(月) (1999年) *14
歳入総額	183,552百万ツグrik	*9	主要輸出品目	鉱物資源、牧畜産品 *1
歳出総額	201,278百万ツグrik	*9	主要輸入品目	石油製品、自動車、機械設備類、日用雑 *1
総合収支	-19百万ドル (1999年)	*15	日本への輸出	11百万ドル (1999年) *16
ODA受取額	218.6百万ドル (1999年)	*18	日本からの輸入	53百万ドル (1999年) *16
国内総生産(GDP)	916.14百万ドル (1999年)	*6	総国際準備	136.9百万ドル (1999年) *6
一人当たりのGNI	390.0ドル (1999年)	*6	対外債務残高	890.9百万ドル (1999年) *6
分野別GDP	農業 31.6% (1999年) *6		対外債務返済率(DSR)	4.8% (1999年) *6
	鉱工業 29.6% (1999年) *6		インフレ率	53.7% *6
	サービス業 38.8% (1999年) *6		(消費者価格物価上昇率)	(1990-99年)
産業別雇用	農業 男 % 女 % (1996-98年) *6		国家開発計画	MDP (Management Development Programme) 94年10月~2000年頃まで *11
	鉱工業 % (1996-98年) *6			
	サービス業 % (1996-98年) *6			
実質GDP成長率	0.7% (1990-99年) *6			

気象 (年~年平均) 観測地:ウランバートル(北緯47度54分、東経106度52分、標高1,351m) *4,5													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均/計
降水量	0.0	0.0	3.0	5.0	10.0	28.0	76.0	51.0	23.0	5.0	5.0	3.0	209.0 mm
平均気温	-25.6	-21.1	-12.8	-0.8	5.6	13.6	16.1	14.2	8.1	-0.8	-12.8	-22.2	-1.7 °C

- *1 各国概況(外務省)
- *2 世界の国々一覧表(外務省)
- *3 世界年鑑2000(共同通信社)
- *4 最新世界各国要覧10訂版(東京書籍)
- *5 理科年表2000(国立天文台編)
- *6 World Development Indicators 2001(WB)
- *7 BRD Membership List(WB)
- IMF Members' Financial Data by Country(IMF)
- *8 Universal Currency Converter

- *9 Government Finance Statistics Yearbook 1999(IMF)
 - *10 Human Development Report 2000, 2001(UNDP)
 - *11 Country Profile(EIU),外務省資料等
 - *12 United Nations Member States
 - *13 Statistical Yearbook 1999(UNESCO)
 - *14 Global Development Finance 2001(WB)
 - *15 International Financial Statistics Yearbook 2000(IMF)
 - *16 世界各国経済情報ファイル2001(世界経済情報サービス)
- 注: 商品輸入については複式簿記の計上方式を採用しているため
支払い額はマイナス表記になる

	モンゴル国
	Mongolia

項目	年度	1995	1996	1997	1998	1999
技術協力		23.37	18.13	19.33	24.65	19.29
無償資金協力		58.25	48.03	50.46	52.75	53.74
有償資金協力		44.93	58.27	42.98		
総額		126.55	124.43	112.77	77.40	73.03

項目	暦年	1995	1996	1997	1998	1999
技術協力		30.18	24.78	19.18	21.30	24.43
無償資金協力		54.95	48.91	46.10	38.22	33.18
有償資金協力		14.80	30.05	12.70	34.48	33.18
総額		99.93	103.75	77.98	93.99	94.02

	贈与 (1) (無償資金協力・ 技術協力)	有償資金協力 (2)	政府開発援助 (ODA) (1)+(2)=(3)	その他政府資金 及び民間資金(4)	経済協力総額 (3)+(4)
二国間援助 (主要供与国)	100.1	38.1	138.2	-9.9	128.3
1. Japan	60.8	33.2	94.0	3.6	97.6
2. Germany	14.6	5.0	19.6	-3.4	16.2
3. United States	12.5	0.0	12.5	0.0	12.5
4. Netherland	2.8	0.0	2.8	0.0	2.8
多国間援助 (主要援助機関)	13.0	66.4	79.4	0.0	79.4
1. AsDB			46.9	0.0	46.9
2. IDA			14.2	0.0	14.2
その他			1.1	0.0	1.1
合計	113.1	105.5	218.6	-9.9	208.7

"技術協力：財政経済省経済協力事業管理調整局 無償：財政経済省経済協力事業管理調整局 協力隊：財政経済省経済協力事業管理調整局"
--

*17 我が国の政府開発援助2000(国際協力推進協会)

*18 International Development Statistics (CD-ROM) 2001 OECD

*19 JICA資料

5. 討議議事録

Minutes of Discussions
On the Basic Design Study On the Project for
the Improvement of Primary Education Facilities (phase II)
In Mongolia

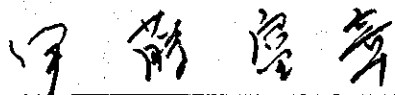
In response to a request from the Government of Mongolia, the Government of Japan decided to conduct a Basic Design Study on the Project for Improvement of Primary Education Facilities (phase II) (hereinafter referred to as "the Project") and entrusted the study to the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA").

JICA sent to Mongolia the Basic Design Study Team (hereinafter referred to as "the Team"), which is headed by Mr. Tomiaki Ito, the Deputy Director, First Contract Division, Procurement Department, JICA, and is scheduled to stay in the country from 12th June to 11th July, 2001.

The Team held discussions with the officials concerned of the Government of Mongolia and conducted a field survey at the study area.

In the course of discussions and field survey, both parties confirmed the main items described on the attached sheets. The Team will proceed to further works and prepare the Basic Design Study Report.

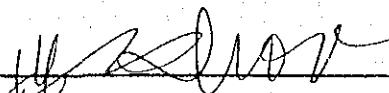
Ulaanbaatar, the 22nd June, 2001



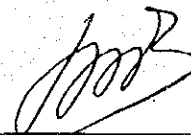
Mr. Tomiaki Ito
Leader
Basic Design Study Team
Japan International Cooperation Agency



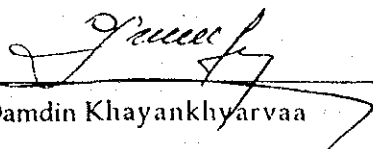
Mr. Baatar Erdenesuren
Deputy Minister
Ministry of Science, Technology Education and Culture
Mongolia



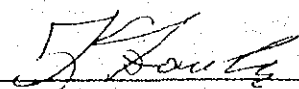
Mr. Jantsan Gulgou
Deputy Director
Asia and America Department
Ministry of Foreign Affairs
Mongolia



Mr. Khosbayar Amarsaikhan
Director General
Department of Economic Cooperation
Management and Coordination
Ministry of Finance and Economy
Mongolia



Mr. Damdin Khayankhyarvaa
Governor
Provincial Government of Darkhan Uul
Mongolia



Mr. Kaseni Dauletbai
Governor
Provincial Government of Orkhon
Mongolia

ATTACHMENT

1.Objective of the Project

The objective of the Project is to improve the educational environment by constructing/expanding school buildings.

2.Project sites

The sites of the Project are the Province of Darkhan Uul and the Province of Orkhon. The fifteen-(15) sites listed in Annex-1 have been confirmed as the candidate sites to be surveyed for the Project.

3.Responsible and Implementing Agency

3-1.The Responsible Agency is the Ministry of Science, Technology, Education and Culture hereinafter referred as "MOSTEC")

3-2.The Implementing Agency is MOSTEC, the Province of Darkhan Uul and the Province of Orkhon (hereinafter referred as " the Provinces" .)

4.Items requested by the Government of Mongolia

After discussions with the Team, the items described in Annex-2 were finally requested by Mongolian side. JICA will assess the appropriateness of the request and will recommend to the Government of Japan for approval.

(1) Construction of the Buildings and Facilities

Details of items are listed in Annex-2.

(2) Procurement of the Equipment

Details of items are listed in Annex-2.

The final component of the Project, however, will be determined after further study.

5.Japan's Grant Aid Scheme

5-1. The Mongolia side understands the Japan's Grant Aid Scheme explained by the Team, as described in Annex-4.

5-2. The Mongolian side will take the necessary measures, as described in Annex-5, for smooth implementation of the Project, as a condition for the Japan's Grant Aid to be implemented.

6.Schedule of the Study

6-1. The consultants will proceed to further studies in Mongolia until 11th July, 2001.

6-2. JICA will prepare the draft report in English and dispatch a mission in order to explain its contents in mid-November, 2001.

6-3. In case that the contents of the report is accepted in principle by the Government of Mongolia, JICA will complete the final report and send it to the Government of Mongolia by early in March, 2002.

19

[Handwritten signature]

[Handwritten signature]

[Handwritten signature]

7. Other relevant issues

7-1. Selection of Project Sites

Both Parties confirmed the criteria for the Site Selection listed in Annex-3. Project sites will be, however, determined by Japanese side according to the site survey and analysis in Japan, therefore the areas and schools listed in Annex-1 are not confirmed to be selected for Japan Grant Aid.

7-2. Design of Buildings

Both parties confirmed the principle for the design of buildings and equipment described below.

- 1) Building should be designed with respecting the standards, laws and regulations of educational facilities in Mongolia.
- 2) The number of classrooms should be designed with considering the needs necessary to comply with circumstances at present and in near future, such as school age population in a school district/its substitute.

The design, however, should be adequate, considering the present conditions.

7-3. Preparation of the Project site

The Mongolian side shall secure land for the Project, and clear, level and reclaim the site prior to the commencement of the Project. In addition, the Mongolian side shall also assure there will be no construction or any other project at the Project site.

7-4. VAT

The Mongolian side shall exempt Japanese juridical and physical nationals engaged in the Project from custom duties, internal taxes including VAT, and other physical levies which may be imposed in Mongolia regarding the procurement of equipment, material and services under the verified contract.

7-5. Environmental Impact Assessment

The Mongolian side shall confirm the requirement of the Mongolian Law on Environmental Impact Assessment related to the Project, and shall take necessary actions to obtain the formal approval from the Ministry of Nature and Environment prior to the commencement of the Project.

7-6 Allocation of teaching and administrative staff

The Mongolian side shall assign the sufficient number of teaching and administrative staff to satisfy the increase of the facilities by the implementation of the Project.

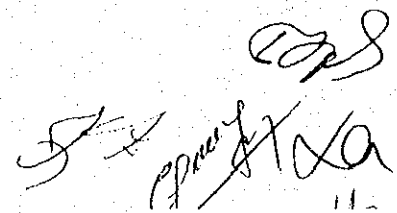
7-7. Steering Committee

For the sake of smooth implementation of the Project, the steering committee for the Project composed of MOSTEC, the Provinces and the ministries and agencies concerned will be established by the middle of July 2001, under the responsibility of MOSTEC. The Mongolian side will submit the member list of the above-mentioned committee to JICA Mongolia Office.

7-8. Maintenance

The Mongolian side shall ensure budget and personnel to maintain the buildings and equipment after the completion of the Project.

47



7-9. Lowering of the school age and change of education system

The Mongolian side explained their policy to lower the school age, eight to six or seven, and to change the present education system (4-4-2) in future, and the Japanese side took note that explanation.

4

[Handwritten signatures and initials]

Annex-1 The List of School to be Surveyed

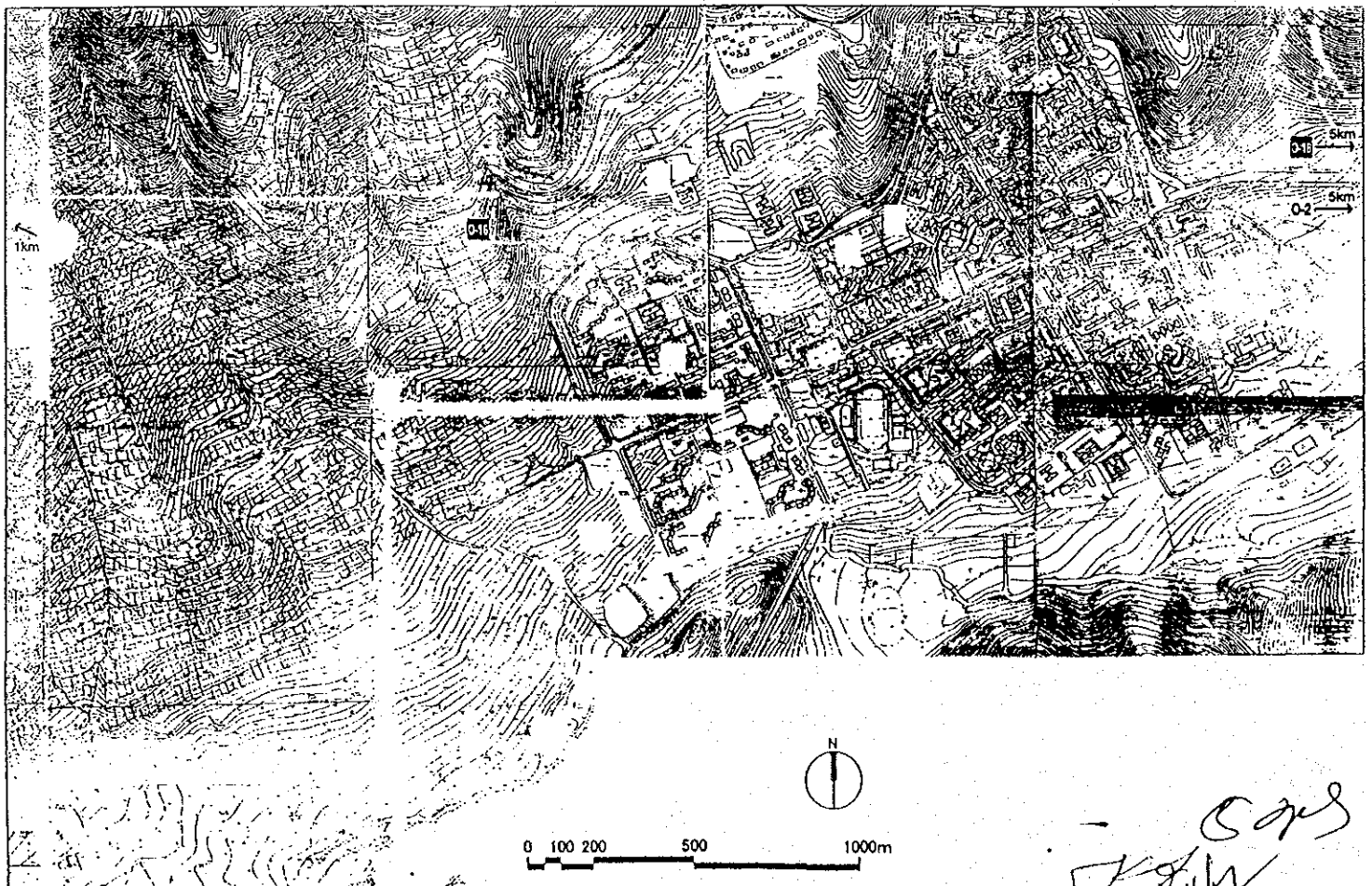
1. Darkhan-Uul Province

No.	School
1	No.4 school
2	No. 11 school
3	Od No.3 school
4	No. 9 school
5	Jiguur complex

2. Orkhon Province

No	School
1	New school (No. 16)
2	New school (No. 17)
3	New school (No. 18)
4	No. 3 school
5	No. 2 school
6	No. 5 school
7	No. 11 school
8	No. 7 school
9	No. 6 school
10	No. 4 school

The map of new schools are shown below.



CA

Handwritten signatures and notes, including the name "Xa..." and other illegible scribbles.

Annex-2 Requested Components

1 Facilities

- (1) Classrooms
- (2) Staff Rooms
- (3) Sanitation Facilities

2 Equipment

- (1) Desks and Chairs
- (2) Educational Materials and Equipment

17

[Handwritten signature and scribbles]

Annex-3 Criteria for the Site Selection

1. shortage of classroom, adoption of multiple shift
2. physical and structural conditions of the existing schools
3. pupil enrollment in the existing school, its school district and /or administrative district
4. ability of communities and school to carry out maintenance

17

[Handwritten signature]
C. Prince
WA

Annex-4 Japan's Grant Aid Scheme

1. Grant Aid Procedure

1) Japan's Grant Aid Program is executed through the following procedures.

Application (Request made by a recipient country)

Study (Basic Design Study conducted by JICA)

Appraisal & Approval (Appraisal by the Government of Japan and Approval by Cabinet)

Determination of (The Notes exchanged between the Governments of Japan

Implementation and the recipient country)

2) Firstly, the application or request for a Grant Aid project submitted by a recipient country is examined by the Government of Japan (the Ministry of Foreign Affairs) to determine whether or not it is eligible for Grant Aid. If the request is deemed appropriate, the Government of Japan assigns JICA to conduct a study on the request. If necessary, JICA send a Preliminary Study Team to the recipient country to confirm the contents of the request.

Secondly, JICA conducts the study (Basic Design Study), using Japanese consulting firms.

Thirdly, the Government of Japan appraises the project to see whether or not it is suitable for Japan's Grant Aid Programme, based on the Basic Design Study report prepared by JICA, and the results are then submitted to the Cabinet for approval.

Fourthly, the project, once approved by the Cabinet, becomes official with the Exchange of Notes signed by the Governments of Japan and the recipient country.

Finally, for the implementation of the project, JICA assists the recipient country in such matters as preparing tenders, contracts and so on.

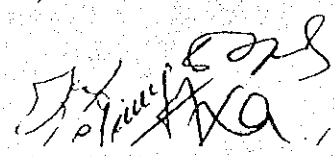
2. Basic Design Study

1) Contents of the Study

The aim of the Basic Design Study (hereinafter referred to as "the Study"), conducted by JICA on a requested project (hereinafter referred to as "the Project"), is to provide a basic document necessary for the appraisal of the Project by the Government of Japan. The contents of the Study are as follows:

- a) confirmation of the background, objectives and benefits of the Project and also institutional capacity of agencies concerned of the recipient country necessary for the Project's implementation;
- b) evaluation of the appropriateness of the Project to be implemented under the Grant Aid Scheme from the technical, social and economic points of view;
- c) confirmation of items agreed on by both parties concerning the basic concept of the Project;
- d) preparation of a basic design of the Project; and
- e) estimation of costs of the Project.

The contents of the original request are not necessarily approved in their initial form as the contents of the Grant Aid project. The Basic Design of the Project is confirmed considering the guidelines of Japan's Grant Aid Scheme.



The Government of Japan requests the Government of the recipient country to take whatever measures are necessary to ensure its self-reliance in the implementation of the Project. Such measures must be guaranteed even through they may fall outside of the jurisdiction of the organization in the recipient country actually implementing the Project. Therefore, the implementation of the Project is confirmed by all relevant organizations of the recipient country through the Minutes of Discussions.

2) Selection of Consultants

For the smooth implementation of the Study, JICA uses a consulting firm selected through its own procedure (competitive proposal). The selected firm participates the Study and prepares a report based upon the terms of reference set by JICA.

At the beginning of implementation after the Exchange of Notes, for the services of the Detailed Design and Construction Supervision of the Project, JICA recommends the same consulting firm which participated in the Study to the recipient country, in order to maintain the technical consistency between the Basic Design and Detailed Design as well as to avoid any undue delay caused by the selection of a new consulting firm.

3. Japan's Grant Aid Scheme

1) What is Grant Aid?

The Grant Aid Program provides a recipient country with non-reimbursable funds to procure the facilities, equipment and services (engineering services and transportation of the products, etc.) for economic and social development of the country under principles in accordance with the relevant laws and regulations of Japan. Grant Aid is not supplied through the donation of materials as such.

2) Exchange of Notes (E/N)

Japan's Grant Aid is extended in accordance with the Notes exchanged by the two Governments concerned, in which the objectives of the project, period of execution, conditions and amount of the Grant Aid, etc., are confirmed.

3) "The period of the Grant" means the one fiscal year which the Cabinet approves the project for. Within the fiscal year, all procedure such as exchanging of the Notes, concluding contracts with consulting firms and contractors and final payment to them must be completed.

However, in case of delays in delivery, installation or construction due to unforeseen factors such as weather, the period of the Grant Aid can be further extended for a maximum of one fiscal year at most by mutual agreement between the two Governments.

4) Under the Grant, in principle, Japanese products and services including transport or those of the recipient country are to be purchased.

When the two Governments deem it necessary, the Grant Aid may be used for the purchase of the products or services of a third country.

However, the prime contractors, namely consulting, contracting and procurement firms, are limited to "Japanese nationals". (The term "Japanese nationals" means persons of Japanese nationality or Japanese corporations controlled by persons of Japanese nationality.)

5) Necessity of "Verification"

The Government of the recipient country or its designated authority will conclude contracts denominated in Japanese yen with Japanese nationals. Those contracts shall be verified by the Government of Japan. This "Verification" is deemed necessary to secure accountability of Japanese taxpayers.

6) Undertakings required to the Government of the recipient country

a) to secure a lot of land necessary for the construction of the Project and to clear the

17
Handwritten signatures and initials at the bottom right of the page.

- b) to provide facilities for distribution of electricity, water supply and drainage and other incidental facilities outside the site;
 - c) to ensure prompt unloading and customs clearance at ports of disembarkation in the recipient country and internal transportation therein of the products purchased under the Grant Aid;
 - d) to exempt Japanese nationals from customs duties, internal taxes and fiscal levies which may be imposed in the recipient country with respect to the supply of the products and services under the verified contracts;
 - e) to accord Japanese nationals whose services may be required in connection with the supply of the products and services under the verified contracts such as facilities as may be necessary for their entry into the recipient country and stay therein for the performance of their work;
 - f) to ensure that the facilities constructed and products purchased under the Grant Aid be maintained and used properly and effectively for the Project; and
 - g) to bear all the expenses, other than those covered by the Grant Aid, necessary for the Project.
- 7) "Proper Use"
The recipient country is required to maintain and use the facilities constructed and equipment purchased under the Grant Aid properly and effectively and to assign the necessary staff for operation and maintenance of them as well as to bear all the expenses other than those covered by the Grant Aid.
- 8) "Re-export"
The products purchased under the Grant Aid shall not be re-exported from the recipient country.
- 9) Banking Arrangement (B/A)
- a) The Government of the recipient country or its designated authority should open an account in the name of the Government of the recipient country in a bank of Japan (hereinafter referred to as "the Bank"). The Government of Japan will execute the Grant Aid by making payments in Japanese yen to cover the obligations incurred by the Government of the recipient country or its designated authority under the verified contracts.
 - b) The payments will be made when payment requests are presented by the Bank to the Government of Japan under an Authorization to Pay (A/P) issued by the Government of recipient country or its designated authority.
- 10) Authorization to Pay (A/P)
The Government of the recipient country shall bear an advising commission of an Authorization to Pay.

4. Necessary measures undertaking by each government

Major undertaking to be taken by each government is shown in the Appendix-1.

⑦

[Handwritten signatures and initials]

Appendix-I Necessary measures undertaking by each government

NO	Items	To be covered by Grant Aid	To be covered by Recipient side
1	To secure the land for the Project and		●
2	To clear, level and reclaim the site when needed		●
3	To construct gates and fences in and around the site		●
4	To construct the parking lot	●	
5	To provide proper access road to the Project area, when needed		●
6	To remove existing facilities, when needed		●
7	To construct roads		
	1) Within the site	●	
	2) Outside the site		●
8	To construct the building	●	
9	To provide facilities for the distribution of electricity, water supply, telephone, sewage, drainage, heating and other incidental facilities		
	1) Electricity		
	a. The distributing line to the site		●
	b. The drop wiring and internal wiring within the site	●	
	c. The main circuit breaker and transformer	●	
	2) Water Supply		
	a. The city water distribution main to the site		●
	b. The supply system within the site (receiving and/or elevated tanks)	●	
	3) Drainage		
	a. The city drainage main (for storm, sewer and others) to the site		●
	b. The drainage system (for toilet sewer, ordinary waste, storm drainage and others) within the site	●	
	4) Gas Supply		
	a. The city gas main to the site		●
	b. The gas supply system within the site	●	
	5) Telephone System		
	a. The telephone trunk line to the main distribution frame / panel (MDF) of the building		●
	b. The MDF and the extension after the frame / panel	●	
	6) Furniture and Equipment		
	a. General furniture		●
	b. Project equipment	●	
10	To bear the following commissions to a bank of Japan for the banking services based upon the B/A		
	1) Advising commission of A/P		●
	2) Payment commission		●

47

Handwritten signatures and initials, including "CP" and "A" with a date "1/12".

11	To ensure prompt unloading and customs clearance at the port of disembarkation in recipient country		
	1) Marine(Air) transportation of the products from Japan to the recipient country	●	
	2)Tax exemption and customs clearance of the products at the port of disembarkation		●
	3) Internal transportation from the port of disembarkation to the project site	●	
12	To accord Japanese nationals whose services may be required in connection with the supply of the products and the services under the verified contract such facilities as may be necessary for their entry into the recipient country and stay therein for the performance of their work		●
13	To exempt Japanese nationals from customs duties, internal taxes, including VAT (Value Added Tax), and other fiscal levies which may be imposed in the recipient country with respect to the supply of the products and services under the verified contract		●
14	To maintain and use properly and effectively the facilities constructed and equipment provided under the Grant Aid		●
15	To bear all the expenses, other than those to be borne by the Grant Aid, necessary for construction of the facilities as well as for the transportation and installation of the equipment		●

17

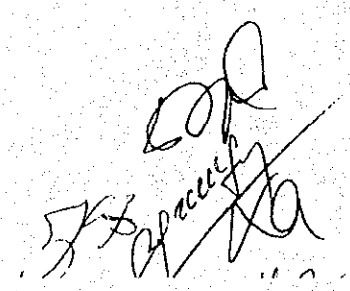
5/2/2019
 [Handwritten signature]

Annex-5 Necessary Measures to be taken by the Mongolian Side

The Mongolian side will take necessary measures to:

- (a) to secure a lot of land necessary for the construction of the Project and to clear the site;
- (b) to provide facilities for distribution of electricity, water supply and drainage and other incidental facilities outside the site;
- (c) to ensure prompt unloading and customs clearance at ports of disembarkation in the recipient country of the products purchased under the Grant Aid;
- (d) to exempt Japanese nationals from customs duties, internal taxes and fiscal levies which may be imposed in the recipient country with respect to the supply of the products and services under the verified contracts;
- (e) to accord Japanese nationals whose services may be required in connection with the supply of the products and services under the verified contracts such as facilities as may be necessary for their entry into the recipient country and stay therein for the performance of their work;
- (f) to ensure that the facilities constructed and products purchased under the Grant Aid be maintained and used properly and effectively for the Project; and
- (g) to bear all the expenses, other than those covered by the Grant Aid, necessary for the Project.

49

Handwritten signature and initials in the bottom right corner, including the letters 'EOR' and 'AP'.

Minutes of Discussions
On the Basic Design Study On the Project for
the Improvement of Primary Education Facilities (phase II)
In Mongolia
(Explanation On Draft Report)

In June, 2001, the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") dispatched a Basic Design Study Team on the Project for Improvement of Primary Education Facilities (phase II) (hereinafter referred to as "the Project") to Mongolia, and through discussion, field survey, and technical examination of the results in Japan, JICA prepared a draft report of the study.

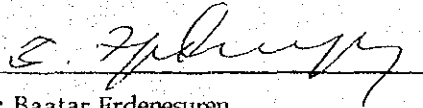
In order to explain and to consult with the official concerned of the Government of Mongolia on the components of the draft report, JICA sent to Mongolia the Draft Report Explanation Team (hereinafter referred to as " the Team "), which is headed by Mr. Shoji Futamura, the Deputy Director, First Contract Division, Procurement Department, JICA, from 6th November to 14th November, 2001.

As a result of discussions, both parties confirmed the main items described on the attached sheets.

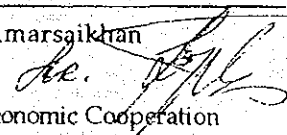
Ulaanbaatar, the 13th November, 2001

二 村 昌 治

Mr. Shoji Futamura
Leader
Draft Explanation Team
Japan International Cooperation Agency



Mr. Baatar Erdenesuren
Deputy Minister
Ministry of Science, Technology, Education and Culture
Mongolia

Mr. Khosbayar Amarsaikhan
Director General 
Department of Economic Cooperation
Management and Coordination
Ministry of Finance and Economy
Mongolia

Mr. Damdin Khayankhyarvaa
Governor
Provincial Government of Darkhan Uul
Mongolia

Mr. Kaseni Dauletbai
Governor
Provincial Government of Orkhon
Mongolia

ATTACHMENT

1. Component of the Draft Report

The Government of Mongolia agreed and accepted in principle the components of the draft report explained by the Team. The selected schools are shown in Annex-1.

2. Japan's Grant Aid scheme

The Mongolia side understands the Japan's Grant Aid Scheme and the necessary measures to be taken by the Government of Mongolia as explained by the Team and described in Annex-5 and Annex-6 of the Minutes of Discussions signed by both parties on 22nd June, 2001.

3. Schedule of the Study

JICA will complete the final report in accordance with the confirmed item and send it to the Government of Mongolia by early in March 2002.

②

[Handwritten signature]

[Handwritten signature]

AP-22

[Handwritten signature]

[Handwritten signature]

4. Other relevant issues

4-1. Preparation of the Project sites

The Mongolian side shall secure land for the Project, and clear, level and reclaim the sites prior to the commencement of the construction works. These preparation works shall be completed by October 2002, for phase-1 and by October 2003, for phase-2.

Phase 1; Orkhon No. 3, No. 16, No. 17, No. 18

Phase 2; Darkhan Uul No. 4, No. 11, Od. No.3. Orkhon No. 2, No. 7, No. 6

4-2. Reform of Education System and Revision of the Educational Law

The Mongolian side explained their policy to lower the school age, from eight to six or seven, and to change the present education system (4-4-2). The Mongolian side also explained that the bill of revision of the Education Law for this reform is now under deliberation in the Parliament. The Mongolian side ensured that this bill would be passed and entrance to school from the age of seven would be implemented in the Province of Darkhan Uul and the Province of Orkhon by 2005. The Japanese side took note of the explanation.

4-3. VAT

The Mongolian side shall exempt Japanese nationals engaged in the Project from custom duties, internal taxes including VAT, and other fiscal levies which may be imposed in Mongolia regarding the procurement of equipment, materials and services under the verified contract. VAT imposed on services shall also be exempted.

4-4. Necessary Authorization

The Province of Darkhan Uul and the Province of Orkhon shall accord Japanese nationals engaged in the Project all necessary permissions, approvals, licenses, admissions, sanctions or any authorization required in Mongolia for executing the Project, or shall extend assistance to Japanese nationals in obtaining such necessary permissions promptly. MOSTEC shall also monitor and supervise the progress of obtaining such authorization.

4-5. Plan of Converting into Dormitory

The Mongolian side explained their plan to convert 6 classroom of Darkhan Uul No. 11 School into dormitory. The Japanese side took note of the explanation.

4-6. Steering Committee

The Team confirmed a member's list of the steering committee described in the Minutes of Discussions signed by both parties on 22nd June, 2001.

4-7. Allocation of Students

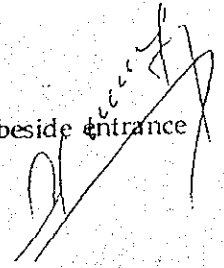
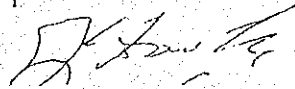
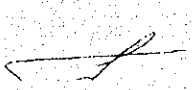
The Team explained the necessity of appropriate allocation of students for maximization of the effects of the Project.

4-8. Allocation of Budget and Personnel

The Mongolian side shall secure budget and personnel, especially teaching staff, for implementation and for operation/maintenance of the facilities and equipment.

4-9. Construction of the Slope

The Mongolian side requested the Team to construct a slope for handicapped students beside entrance steps at Orkhon No.7 School. The Team took a note of the request.



Annex-1 The List of Selected Schools

1. Darkhan-Uul Province

No.	School
1	No.4 school
2	No. 11 school
3	Od No.3 school

2. Orkhon Province

No	School
1	New school (No.16)
2	New school (No.17)
3	New school (No.18)
4	No. 3 school
5	No. 2 school
6	No. 7 school
7	No. 6 school

NOTE; The number doesn't indicate the priority.

5

[Handwritten signature]

[Handwritten signature]

6.事前評価表

1. 協力対象事業名
モンゴル国 第2次初等教育施設整備計画
2. 我が国が援助することの必要性・妥当性
<p>(1) モンゴル国の経済は、1990年からの民主化及び市場経済化に伴う混乱に加え、旧ソ連の援助停止もあいまって一時危機的な状況に陥った。その後、緊縮財政政策やドナー支援により徐々に改善されてはいるものの、状況は依然良好とはいえない。また、同国の安定と経済発展は、周辺地域の政治的・経済的安定にとっても重要であることから、我が国は1991年より世銀と協調し、対モンゴル国支援の国際的枠組みの構築に努めている。</p> <p>(2) モンゴル国では、民主化と市場経済化推進に対応できる人的資源の開発を最重要課題とし、重要分野として基礎教育セクターを挙げている。しかしながら、教育予算の恒常的な不足により、同国では新たな校舎建設や機材整備に十分な投資がなされておらず、特に都市部の学校では急激な生徒数増加に対応するため、複数シフト制が採用されている。このような劣悪な学習環境は、児童の就学に対する意欲を失わせ、就学率の低下を加速させている。こうした背景を踏まえ、モンゴル国政府は同国の第2、第3の都市であるダルハン・オール県、オルホン県における初等教育施設の整備を我が国に要請した。これを受けて我が国政府はその妥当性を検討し、計画対象校として選定した10校における初等教育施設の増築又は新築、教育用家具と機材の整備を行うこととした。本計画の実施により、同国の初等教育における学習環境が改善され、ひいては同国の人的資源開発に貢献することが期待される。</p>
3. 協力対象事業の目的
本計画は、モンゴル国第2・第3の都市であるダルハン・オール県、オルホン県の計画対象校10校において、過密教室を緩和し、学習環境を改善することを目的とする。
4. 協力対象事業の内容
<p>(1) 対象地域 モンゴル国ダルハン・オール県、オルホン県</p> <p>(2) アウトプット 対象地域における初等教育施設及び機材の整備</p> <p>(3) インプット 計画対象校10校 1) 施設内容：117の普通教室、教員室、便所 2) 機材内容：生徒用机・椅子、教員用机・椅子、教材用キャビネット等の教育用家具、教授用掛図を主とする基礎教材、及び施設維持管理のための備品</p> <p>(4) 総事業費 概算事業費 18.65億円（日本側18.56億円、モ国側890万円）</p> <p>(5) スケジュール 実施設計期間を含め、合計37ヶ月を予定</p>

- (6) 実施体制
 責任機関：モンゴル国教育文化科学省
 (Ministry of Science, Technology, Education and Culture)
 実施機関：ダルハン・オール県、オルホン県

5. プロジェクトの成果

- (1) プロジェクトにて裨益を受ける対象の範囲及び規模
 計画対象 10 校の生徒 10,615 人／年及びその教員
- (2) プロジェクトの目標を示す成果指標
 計画対象 10 校の過密教室の緩和による学習環境の改善
 成果指標：計画対象校の 2005 年度の一教室当り生徒数を最大 72 人以下にする
 (生徒数 36 人/教室以下で 2 シフトの授業の実施が可能)

	2001 年度 (実施前)	2005 年 (実施後)
一教室当りの生徒数	93.07 人 / 室	59.10 人 / 室
計画対象 10 校の生徒数	6,307 人	10,615 人

6. 外部要因リスク

- (1) 計画対象地域への人口流入が急激に進まない。
- (2) 計画対象校における教員配置が遅延なく適切に実施される。
- (3) 既存施設を含めた適切な施設維持管理が実施されることにより、計画対象校における使用可能施設数が減少しない。
- (4) 就学開始年齢の引き下げ (8 歳児→6 歳児)・学制の変更 (4・4・2 制→6・3・3 制) が、教育施設の収容力に応じて段階的に実施される。(本プロジェクトでは、2004 年から 7 歳児入学が、政策として実施されることを前提としている。)
- (5) 既存校から新設された計画対象校への生徒の振り分けが速やかに実施される。

7. 今後の評価計画

- (1) 事後評価に用いる成果指標
 一教室当り生徒数
- (2) 評価のタイミング
 施設完工 (2005 年) 後供用を開始した段階で、事後評価を実施予定。

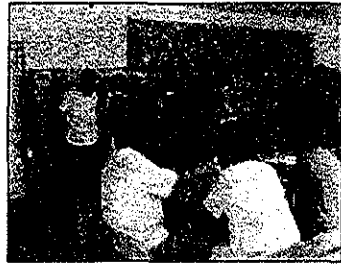
7. 参考資料/入手資料リスト

調査名 モンゴル国 第2次初等教育施設整備計画基本設計調査

番号	名称	形態	国/地域	発行機関	発行年
一般（開発計画、社会経済背景など）					
1	Mongolian Statistical Yearbook	図書	モンゴル	National Statistical Office of Mongolia	2001
2	Mongolian Action Programme For The 21 st Century MAP-21	図書	モンゴル	Project Implementation Unit MAP-21	1999
3	Action Program of the Government of Mongolia	図書	北緯	Government of Mongolia	2000
4	Reproductive Health Survey 1998	図書	モンゴル	National Statistical Office of Mongolia and UNFPA	1999
5	A Pilot Time Use Survey 2000	図書	モンゴル	National Statistical Office of Mongolia and UNFPA	2000
6	Living Standards Measurement Survey 1998	図書	モンゴル	National Statistical Office of Mongolia and UNFPA	1999
7	Women and men in Mongolia	図書	モンゴル	National Statistical Office of Mongolia	1999
教育					
8	Mongolia Education Sector Strategy 2000-2004	図書	モンゴル	Ministry of Science, Technology, Education and Culture	2000
9	Education Sector Development Program	冊子	モンゴル	Asian Development Bank	不明
建築					
10	Architectural Standard of Educational Facilities	冊子	北緯	Bureau of the Architectural Standards	1998

ダルハン第4学校

日時 : 6月24日午前
 場所 : ダルハン第4学校
 参加者 : 校長 1
 先生 3
 生徒 3
 保護者 2
 バグ 3
 計 12



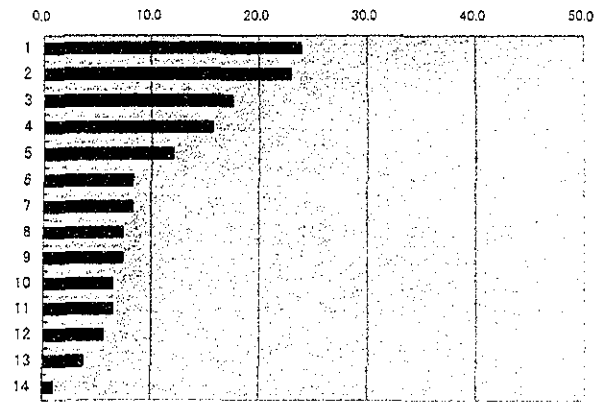
▲集会の様子



▲参加者

問題グループ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計
カード数	26	25	19	17	13	9	9	8	6	7	7	6	4	1	109
%	23.9	22.9	17.4	15.6	11.9	8.3	8.3	7.3	7.3	6.4	6.4	5.5	3.7	0.9	100.0

生徒の生活が苦しい	教室が足りない(7)	建物が古くなった	コンピューターがない(7)	シャワー室がない	暖房の調子が良くない(6)	トイレ(7)	教室が足りない	運動場がない	図書室の本数が少ない(2)	テーブルと椅子が足りない(3)	換気が良くない(4)	10年生の学校にしたい(2)	寮がない
片親の子、児童が多い(2)	クラブの活動ができない(3)	建物がひびが入っている	教育施設がない(3)	水とお湯が出ない(6)	教室が寒い(3)	トイレ外で冬寒(2)	金庫がない	体育館がない(7)	図書室がない(4)	3人の子どもで椅子とテーブルを使用	照明灯が悪い	9年10年のクラスがない(2)	
生徒の生活レベルがかなり低い	増築で問題が少なくなる	建物の品質が悪い	壊壊がない(3)	お湯が出ない			特別教室が足りません		本や教科書が足りない	テーブルと椅子のサイズが合わない	ほこりが多い		
生徒の家の生活は平均より難しい	元半寄宿舎シャワーは役に立たない	建物がもうすぐ倒れそう	施設が悪い	上水と下水が(学校に)接続してない			体育館がない			テーブルと椅子が古くなった			
遠くから歩いて通う子どもが多い(2)	テーブルと椅子が足りない	学校用の建物ではない	壊壊が悪い	暖房が良くない			教室が狭い						
自由時間過ごす場所がない	教室、テーブルと椅子が足りない	建物の品質が悪くほとんど倒れてる	近代的な教育施設がない	上水がない			体育館と会議室がない						
授業を行う状況が悪い	食堂がない(1)	3つの建物が離れ設置している	壊壊とはラジオカセット・ビデオ・テレビ	お湯がない			労働室がない						
先生の給料が少ない		建物が悪くなった					体育館がない						
衛生的に良くない(5)		建物が悪くて動きづらい											
建物が使用に耐えない		教室が狭い											
(建物に)カビがはえている(4)		置付け(庫)や所の降る致に雨漏り											
床が腐っている雨漏り有り(4)		床と窓が良くない											
学校用の建物ではない		教室の床が抜ける											
換気がなし		建物が小さい											
敷地の整備が良くない		教室が狭い(2)											
		教室が古い											



ダルハン第9学校

日時 : 6月26日午後
 場所 : ダルハン第9学校
 参加者 : 校長 1
 先生 3
 生徒 4
 保護者 3
 バグ 1
 計 12



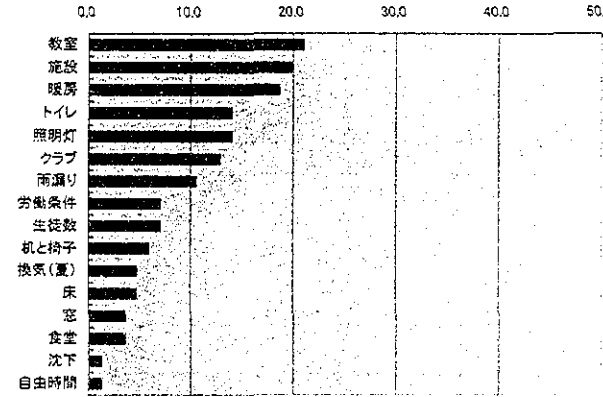
▲参加者



▲集会の様子

問題グループ	教室	施設	暖房	トイレ	照明灯	クラブ	雨漏り	労働条件	生徒数	机と椅子	換気(夏)	床	窓	食堂	沈下	自由時間	計
カード数	18	17	16	12	12	11	9	6	6	5	4	4	3	3	1	1	86
%	20.9	19.8	18.6	14.0	14.0	12.8	10.5	7.0	7.0	5.8	4.7	4.7	3.5	3.5	1.2	1.2	100.0

特別教室が足りない(2)	卓球が足りない	ラジエーターがよく聞かない	流し場が足りない(2)	教室廊下の照明が良くない	芸術室がない	雨漏り有り(9)	黒板の品質が悪い	生徒が多い	机と椅子が足りない	換気なし(3)	床が悪い(3)	窓ガラスが割れている(3)	食堂がない	建物が沈んでいる	自由時間を過ごす場所がない
教室が足りない(7)	化学材料が足りない(2)	暖房が利かない	トイレが整備されていない(6)	照明が良くない(10)	芸術室がない		教員の労働条件が悪い(2)	生徒が多いので教室が足りない	机と椅子が壊れている	換気が良くない	床のタイルが悪くなった		食堂が整備されていない		
教室が狭い	施設が良くない(4)	暖房がよくない(4)	トイレが衛生的でない	敷地の中の照明が良くない	体育館が足りない		給料が生活のために足りない	ひとつの教室で勉強している人数が多い	生徒用の椅子が基準にあわない				食堂の木材が悪くなった		
音楽室がない(2)	特別教室の施設が悪くなった	冬、暖房が良くない(5)	トイレが良くない		体育館の施設が良くない		仕事が多すぎる	生徒が多い	椅子と机が良くない						
実験室が足りない	教室が整備されていない(3)	お湯と水の設備が悪くなった	トイレが要求にあわない		体育館の施設が足りない		騒音が多い	人口が増えている(2)	椅子と机が悪い						
労働室の施設が良くない	化学実験室のインキュベーターが働かない	冬、教室の中が寒い	流し場と便器の水が流れない		体育館の施設が整備されていない										
図書館が十分でない	音楽室がない	お湯と水が不十分			体育館の施設が良くない										
2シフトである	化学室の水道施設の調子悪い	お湯が出ない			体育館が狭い										
図書館の本数が少ない	実験用の材料が足りない	水道設備が良くない			体育館が整備されていない										
図書館が狭い	ほこりが多い				体育館の施設が足りない										
					小学校生徒が体育館で勉強しにくい										



ダルハン第11学校

日時 : 6月27日午前
 場所 : ダルハン第11学校
 参加者 : 校長 1
 先生 6
 職員 3
 生徒 4
 保護者 4
 バグ 1
 計 19



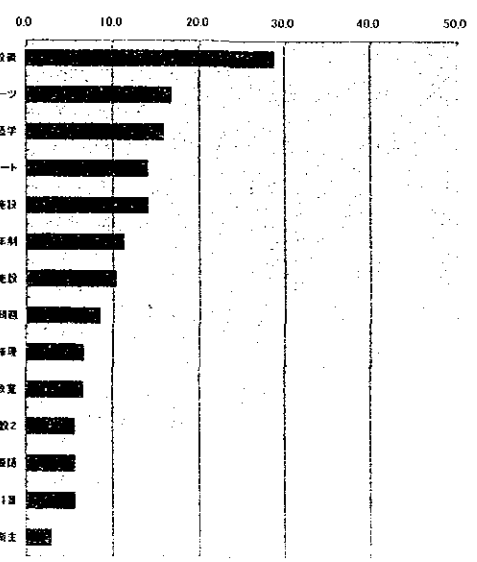
▲集会の様子



▲参加者

問題グループ	設備	スポーツ	遠距離通学	アパート	授業の施設	10年制	施設	社会問題	修理	教室	施設2	外国語	教科書	衛生	計
カード数	31	18	17	15	15	12	11	9	7	7	6	6	6	3	108
%	28.7	16.7	15.7	13.9	13.9	11.1	10.2	8.3	6.5	6.5	5.6	5.6	5.6	2.8	100.0

下水配管がかなり悪い	スポーツルームがない	遠距離通学(7)	先生用のアパートが必要(4)	最新の機材がない	8年制後ほ外へ転出しなければならぬ	施設が悪い	先生と職員の社会的問題の解決が難しい	学校の建物が古くなった	教室が足りない	コンピューターがない	外国語を教えてくれない	教科書が足りない	衛生が不十分
機材のバリエーションが少なくなった	体育館が整備されていない(2)	気候の問題と交通機関の問題で学校を休む子どもが多い	先生と生徒の一部が遠距離から通っている	音楽室がない(2)	10年制でない	施設が良くない	修繕の下算が足りない	上水がなし	授業が足りない	コンピューターがない	外国語を教えてくれない勉強してない	授業用の資料がない	換気が良くない
トイレの水が流れない	音楽室がない(4)	遊技場の子どもが通っている	教室がない	楽材がない	10年制にする必要がある	机と椅子が良くない	ある専門科目を専門以外の先生が教えている	冬、寒い	教室が足りない	コンピューターがない	外国語の先生がいない	授業用の資料がない	学校西がない
学校全般が古くなった(2)	机と椅子の調子が悪い	アパートが足りなく子どもたちが通っている	先生たちが通ってくる	学校の建物の質が悪く転校が多い	10年制にして欲しい	異校の質がわるく生徒が移らない	先生の移動が多い	雨漏りが多い	教室が足りない	コンピューターがない	外国語の勉強が難しい	教科書が足りない	
冬、寒い(10)	机と椅子が足りない	遠くから通っている子どもが通っている	先生の社会問題が難しい	授業用の施設がない(2)	10年制の学校が地域にない	机と椅子が足りない	電気がない	雨漏りが多い	人口が増えているため教室を増やして欲しい	コンピューターがない	英語の先生が必要	授業用の施設が古くなった	
教室が寒いのと生徒の態度に良くない	教室の掃除が難しい	頻りに住んでいる子どもが通っている	先生の交通費を支給してくれない(ダルハ)	施設が不十分	8年を卒業後勉強を続けられない	机と椅子が足りない	電気がない	建物の基礎が弱くなっている	教室が足りない	コンピューターがない	ロシア語以外の外国語を教えていない	資料が足りない	
体育館が高い	文化音楽室がない	遠くに住んでいる子どもが長期で通ってくる	子どもたちが通ってくる	授業用の機材が必要	10年制にして欲しい	机と椅子が足りない	停電が多い	雨漏りが多い	教室が狭い				
お湯がない(3)	クラブの活動が難しい	家がほとんど通っていない	先生の交通費を支給して欲しい	教材が必要	10年制の制度が必要	異校が良くない	電気機器が止められることがある						
ラジエーターから水が漏る	学校のスペースが狭い	12Kmから20Kmから西に乗って通う子もいる	先生の遠距離通学の交通費	先生の遠征として車とバイクしかない	10年制にして欲しい	全部の施設が壊れた	子どもの生活が苦しい						
機材の調子が悪い	クラブの活動ができない	子どもたちが通ってくる	遠距離通学の交通費	授業用の教材として黒板とチョークしかない	10年制の必要がある	施設が壊れた。特に床と机・椅子							
トイレが悪い(2)	教室狭い		家がなし(2)	授業の準備のための資料がない	10年制にして欲しい	施設が全体的に良くない							
上水の流入が悪い	体育館の中にバスケットボールのネット			施設が不十分	10年制の学校が欲しい								
上水と下水のシステムが壊れている	体育館の状況が悪い			コンピューターが必要									
上水とお湯がない													
高い期間修繕がされていない													
修理しないまま長期閉鎖した													
屋根が壊れている													
下水配管の調子が良くない													



ダルハン第16学校

日時 : 6月25日 午前
 場所 : ダルハン第16学校
 参加者 : 校長 1
 県教育担当 1
 先生 3
 生徒 2
 保護者 3
 バグ 3
 計 13

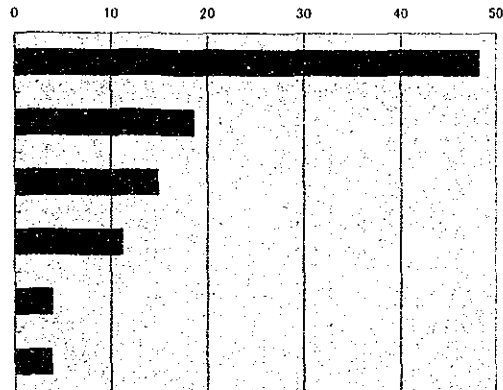


▲集会の様子

▲参加者

問題グループ	1	2	3	4	5	6	計
カード数	26	10	8	6	2	2	54
%	48.1	18.5	14.8	11.1	3.7	3.7	100.0

修理工がない (学校内を) 修理する 必要がある 施設が悪い	教室が足りない クラブの活動がしにく い	食堂が狭い 玄関(入り口)が暗い	特別教室が足りない	図書館の本が少ない 椅子とテーブルの数を 増やす	職員の給与が少ない (教員の) 給与が少な い
水の配管が古くなっ た	生徒数が多い	教室が狭い	音楽器が足りない	子どもが自由時間を 過ごす場所がない	
上水の配管に穴があ いた	教室が足りない	運動場が整備されて いない	スポーツ施設が足り ない	音楽室がない	
外側の照明灯がない	体育館の施設が足り ない	物理室の電気の接続 が悪い	特別教室が足りない		
修理の予算がない	教室が足りない	敷地整備の必要があ る			
敷地の中に照明灯が ない	クラブ活動する場所 がない	敷地整備の必要があ る	学校が広すぎる		
敷地が整備されてい ない	教室が足りない				
便器が足りない	先生用の休憩室がな い				
トイレが悪い					
ひとつの便器を多く の子どもが使ってい ない					
(修理の) 予算が足り ない					
雨樋の配管が悪く なった					
食堂の中に暖房が 入っていない					
雨漏りがする					
水とお湯が出ない					
履物の修理が必要					
お湯がない					
雨漏りがする					
過去5年間修理され ていない					
お湯がない					
雨漏りがする					
教室のなかに流しが ない					
教室のなかに流しが ない					
実備用の部屋がない					



ダルハンOo校

日時 : 6月24日午後
 場所 : ダルハンOo校
 参加者 : 校長
 本校先生
 分校先生
 生徒
 保護者
 バグ
 計

1
4
3
2
3
1
14



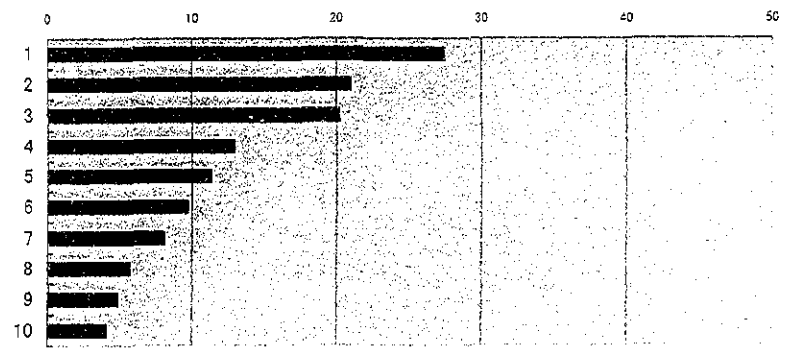
▲集会の様子



▲参加者

問題グループ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
ワード数	34	26	25	16	14	12	10	7	6	5	124
%	27.4	21.0	20.2	12.9	11.3	9.7	8.1	5.6	4.8	4.0	100.0

道距離歩くとき犬が怖い	教室が足りない(7)	スポーツ室の活動がしにくい	下水の配管がない	トイレが汚い(3)	名に性別がなく寒い	(家庭の)生活レベルが低い	転校が多い	近代的な技術が入っていない	教室の中がきれいではない
学校の位置が遠い(4)	4年生から5年生になるのが制限されている	図書室なし(4)	手を洗うところがない	トイレが外で寒い	冬、遠くの学校に行くのが難しい	質いい家が多い	人口が増加(5)	コンピューターがない	換気が悪い
交通機関がない(4)	教室が足りない	学校が遠いから保護者と教員のコミュニケーション	お湯がない	トイレが外にある(9)	寒い	質いい家が多い	子どもの人数が増えている	教員が住んでいる	学校が衛生的でなく書体は悪い
冬は登校が難しい	敷地が狭い	体育館なし	下水の配管がない	トイレがない	冬、遠くの学校に行くのが難しい	質いい家の子もが通学している		情報がなかなか入ってこない	学校の周りが衛生基準にあつてない
道距離通学	黒板が(往で)見えない	廊下が狭い	教室の中に換気がない		冬、寒い	質いい家は子どもの冬服を得意できない		近代的な技術が入っていない	学校の周りが汚い
暑走ってない(4)	教師室がない	クラブがない	お湯がない		通学が利きが悪い	通学が多い		近代的な機会がない	
2-8キロ歩く	柱が校舎の邪魔	運動場がない	下水の配管がない		冬、遠くの学校に行くのが難しい	8歳でも入学できない子がいる			
運送距離通学	柱が校舎の邪魔	校舎以外のスポーツ室がない	上水がない(3)		冬、寒い中遠くまで行くのが大変	成績が遅れている			
中心から離れている	学校用の建物ではない	労働室(技術室)がない	シャワーを浴びるところがない		冬、寒い(3)	成績が悪い			
冬場は子どもが道距離歩くのが困難	柱が校舎の邪魔	クラブがない	集中暖房がない		冬は通うのが難しい	勉強する条件が難しい			
冬服が足りなくて通えない	換気が悪い	補修する場所がない	上水の購入が難しい						
(既存校は)マンダルトから遠い	建物が衛生的でない	体育館なし	下水の配管がない						
道の事情が悪い	教室の整備が良くない	体育館なし	上水と下水がない						
保護者の管理なしで学校を造るのは心配	クラブの活動ができない	近くに映画館なし	下水の配管がない						
遠いので成績が悪い	教室が狭い(4)	体育館なし							
朝夕の見送りが大変	学校用の建物ではない	音楽室なし							
中心から離れている(3)	教室の面積が狭い	音楽室なし							
遠いから通学が多い(3)	校舎以外の活動ができない	補修する場所がない							
遠いから通学の可能性が高い		運動場がない							
遠いから調査などが行われにくい		体育館なし							
子どもには道距離		子どもが遊ぶ場所がない							



オルホン第2番学校

日時 : 6月30日午前
 場所 : オルホン第2学校
 参加者 : 県担当 1
 校長 1
 先生・職員 5
 生徒 2
 保護者 1
 バグ 1
 計 11



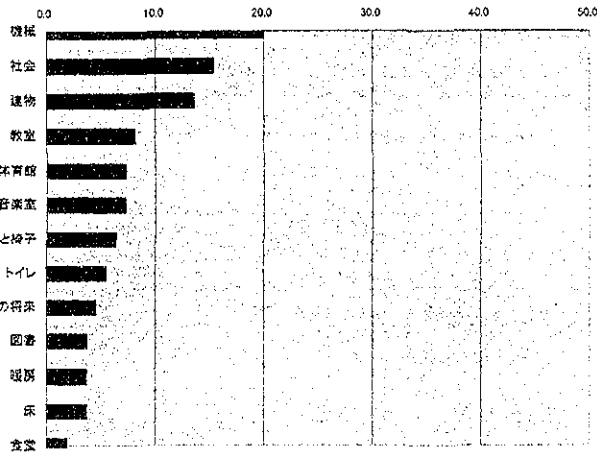
▲集会の様子



▲参加者

問題グループ	機械	社会	建物	教室	体育館	音楽室	机と椅子	トイレ	バグの得点	図書	視覚	床	食費	計
カード数	22	17	15	9	8	8	7	6	5	4	4	4	2	111
%	19.8	15.3	13.5	8.1	7.2	7.2	6.3	5.4	4.5	3.6	3.6	3.5	1.8	100.0

機械が足りない	生徒の数が少ない(2)	照明灯がない	教室が足りない(2)	体育館が足りない(2)	音楽室を作る必要あり	机と椅子が学校施設基準にあてない	トイレが汚い(6)	机が配布する土地の60%がゴミルバグ	生活レベルが低く飲料水を売ってしまう	暖房設備が良くない	床が良くない(2)	食費が整備されていない(2)
コンピューターが足りない	無断が良くない(4)	320人用の学校に110人が勉強	体育館が狭い(2)	音楽室がない(7)	机と椅子の品質が良くない	便器が少ない	ゴミルバグで13/14住宅を達している	教科書が足りない	暖房設備が古くなった	床が壊れる		
情報室が必要	生徒の半分以上が貧困家庭から	710人が300人用の建物で勉強している	運動場の施設がない	机と椅子が足りない(4)	椅子がたがたしている	01年から04年の間に400世帯のアパート計画	300世帯のアパート計画	本棚を交換する必要がある	床、教室の中が汚い	学校の床として使用に耐えない		
小学校の特別教室がない	失業率と貧困は生徒に悪影響を及ぼしている	710人が300人用の建物で勉強している	3シフトで勉強している	体育館のスペースが狭い	一人の教員がたくさんの科目を教えている	教室のための保護室が必要		図書室のスペースが狭い	暖房効率が悪い			
化学室の備品が足りない	保護者の多くが失業している	保護者の学歴が低い	学校の備品の質が良くない	クラブの活動ができない								
外国語用の設備設置が必要	保護者の生活レベルが低い	建物のスペースが狭い	数学の教員が足りない									
特別教室が基準にあてない	社会保護のシステムが良くない	人口の32-38%が学校に通っていない	数地に未だ就学していない									
音楽室がない	市の最初のバグで現在は得点が高くなり見えな											
カメラテレビ・ビデオがない	人口の増加が早い											
教員室にコピー機が必要	工場の高層と同時に人口が増加する											
機械が足りない	保護者が子どものことをよく面倒をみない											
コンピューターが足りない(2)	9年と10年生の教科書が足りない	子どもの学習意欲が低くない										
英語の教科書が足りない	情報が入っていない	定住者が増えている										
9年と10年生の教科書が足りない	特別教室が整備されていない	工場地域になる予定										
情報が入っていない	高校生(9/10年生)の教科書	生活が満足いくレベルに行かない										
特別教室が整備されていない	近代的な機械が足りない											
コンピューターがない												
音楽がない												



オルホン第3番学校

日時 : 7月2日午前
 場所 : オルホン第3学校
 参加者 : 校長 1
 教職員 3
 生徒 2
 保護者 2
 バグ 4
 計 12



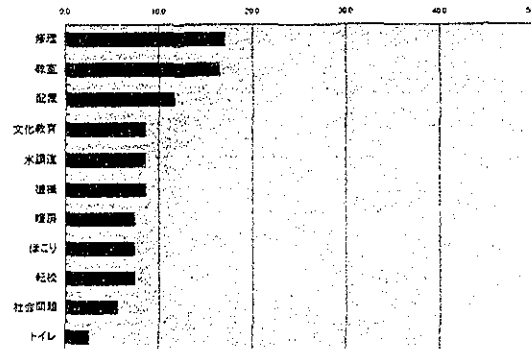
▲集会の様子



▲参加者

問題グループ	修理	教室	配置	文化教育	水関連	機械	暖房	ほこり	転校	社会問題	トイレ	計
カード数	28	27	19	14	14	14	12	12	12	9	4	165
%	17.0	16.4	11.5	8.5	8.5	8.5	7.3	7.3	7.3	5.5	2.4	100.0

修理の質が良くない	教室が足りない(19)	学校の配置が良くない	クラブ活動ができない	上水と下水がない	コンピューターが寒い	寒い	ほこりが多い(8)	転校が多い(4)	保護者が子どもの面倒をみない(3)	トイレが良くない(3)
机と椅子が足りない(7)	ほこりが多い	トイレが遠い	体育館が小さい	上水の事情が良くない	情報機械が足りない	冬、寒い(3)	換気がない(2)	教員の移動が多く(3)	教員と職員が遠くから通っている	トイレが遠い
机と椅子が古くなった(2)	生徒の人数が多くなった(3)	トイレが外にある	運動場がない	上水と下水のシステムが良くない	情報が入ってこない	暖房が利かない(6)	ほこりがかなり多い	別の県から転校してくる人が多い	生徒が遠くから通っている(2)	
雨漏りがある(5)	朝8時から夜8時まで授業がある	トイレが足りない	体育館の施設が良くない	上水なし(7)	機種がない(3)		乾燥している	転入と転出者が多い	住宅地の生活レベルが低い	
屋根が良くない	毎半年の授業が休遅くまである	照明が足りない(2)	運動場が良くない	お湯の配管が偏っていない	教育機械が足りない				生活レベルが低い(3)	
床がよくない(2)	シフトが多い	建物の屋根が悪い	音楽室がない(5)	お湯と上水がない	機種が足りない				野菜を育てて売るなどの収入活	
窓ガラスが二重になっていない	ひとつの机を3-4人で使っている	歩く床が大きな音をたてる	文化教育活動をする場所がない	下水配管がない	特別教室の機具が良くない					
窓ガラスが割れている(2)		修理していない	クラブ活動がまったくない	衛生的に良くない	視覚教室がない					
学校の建物が古くなった		照明が良くない(5)	自由時間を過ごす場所がない		コンピューターが少ない					
設備が良くない		敷地が整備されていない(4)			コンピューター室がない					
修理のための予算が少ない		教材をかうお金がない			教科書が足りない					
修理の質が悪い					労働室にマシンがない					
修理用の予算がない										
教室が狭い										



オルホン第4学校

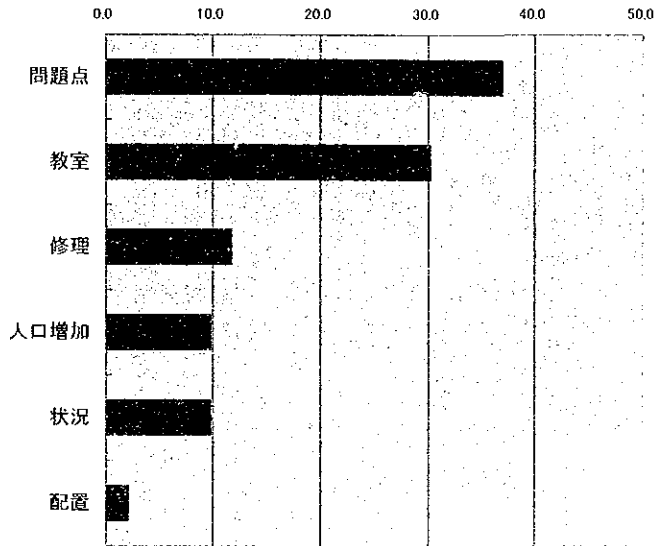
日時 : 7月3日午前
 場所 : オルホン第4学校
 参加者 : 校長 1
 教職員 2
 生徒 2
 保護者 2
 バグ 1
 計 8



▲参加者

問題グループ	問題点	教室	修理	人口増加	状況	配置	計	感想
カード数	38	31	12	10	10	2	103	感想
%	36.9	30.1	11.7	9.7	9.7	1.9	100.0	

学校の設備が良くない	転入のために教室が足りない	建物がかかり古くなってきた	コンプレックス内に転入してくる人が多い	教室が寒い(3)	学校の近くに売店が多い	理解しやすい
トイレがきれいではない	図書室のスペースが狭い	施設が良くない	生徒の転入は毎年増えているため教室が足りない	特別教室が足りない	教員と生徒の東が学校から遠い	
休憩の時間、時間を過ごす場所がない	体育館が足りない	施設が足りない	通ってくる生徒数が増えている	教員の休憩室がない		感謝分がやすかった
修理の予算が足りない	体育館の広さが狭いし設備が未整備	コンピューターが足りない	当学校に入りたい児童の数は多い	実験室が整備されていない		分かりやすく短期間で意見交換ができた
図書室に必要な本がない(2)	クラブ活動のための部屋が足りない	暖房システムが古くなった	他校から転入して来た人が多い	視覚教室がない		学校の状況をよく調査している
図書室が狭い(2)	机と椅子が足りない(2)	修理用の予算がない(2)	転校のため生徒数が増えている	トイレが足りない		意見交換に成功した
教室と廊下の床タイルに穴が開いている	机と椅子の故障が多い	設備が良くない	転入している子どもの数が多い	冬は暖房が利かない		すばらしい会だった
雨漏りがある	クラスあたりの生徒数が多いので勉強がしにくい	トイレが足りない(2)	生徒が多い	暖房が利かない		援助の気持ちをもつ日本国民に感謝する
教材が少ない	教室が足りない	上水と下水の配管が古くなり修理の要あり	教室が足りない(2)			
予算が足りない	学校の収容能力の倍の生徒が勉強している	教員室がない				
暖気が良くない	学校には最新の暖材が設置されていない					
敷地が未整備(4)	教室に授業用の教材が少ない					
新築あるいは増築の必要がある	自由時間を過ごすところがない					
暖房が足りない	他校からの転入が多い					
机と椅子が足りない(3)	教室が足りない(6)					
教室が足りない(3)	自由時間を過ごすところが少ない					
9-10年学年の生徒の3割は不勉強である	生徒数が多いから学校を拡大する必要がある					
クラブ室と練習室がない	クラブ活動ができない					
補習室が足りない	生徒数が多い(2)					
クラスあたりの生徒数が多い	1クラスで40人以上の生徒が勉強している					
暖房が割れても新しい暖房が買えない	学校の敷地が未整備					
ひとつの机を3人で使っている	(コンプレックス内の)小学校は3シフトを実施している					
体育館が生徒数に対して狭い	修理のための予算がない					
音楽室がない	音楽クラブは専用の勉強するところがない					
体育館が狭い(3)						
3つ4つのクラスあるいは100人以上の生徒が同時に体育館を使う冬、教室が寒い						
生徒の人数がかなり多く掃除がしにくい						



オルホン第5番学校

日時 : 6月29日午前
 場所 : オルホン第5学校
 参加者 : 先生 5
 職員 4
 清掃員 3
 生徒 2
 保護者 6
 バグ 2
 計 22



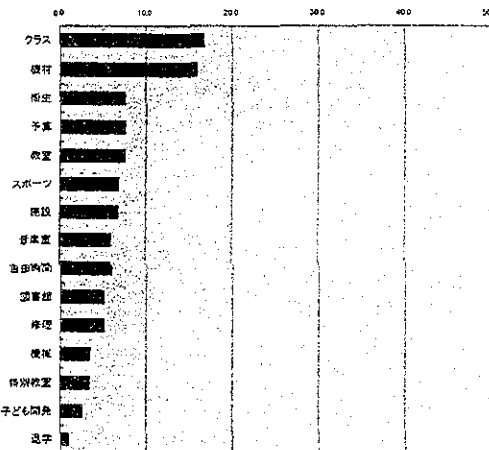
▲集会の様子



▲参加者

問題グループ	クラス	機材	衛生	予算	校室	スポーツ	施設	音楽室	自由時間	図書室	修理	機械	特別教室	子ども開発	進学	計
カード数	20	19	9	9	9	8	8	7	7	6	6	4	4	3	1	120
%	16.7	15.8	7.5	7.5	7.5	6.7	6.7	5.8	5.8	5.0	5.0	3.3	3.3	2.5	0.8	100.0

学区の子どもが多い(2)	視聴覚室がない	仕事の状況が衛生的に良くない	予算が足りない(5)	校室が足りない(5)	授業以外の活動ができない	生徒数が多いので故障が多い	音楽室がない(2)	補修ができない	本数を増やしたい	建物を修理する必要がある	電話がない	化学・物理特別教室が足りない	生徒の考え方をよくする	進学が多い
建物・施設が不足で基準にあっていない	視聴覚室が欲しい(2)	職員の仕事の衛生状況が良くない	予算が少ない(4)	生徒数が多いので敷地を整備する必要がある	図書室が欲しい	教室が整備されていない	教室が整備されていない	オリンピックのための準備ができない	本数が少ない	下水配管を修理する必要がある	クロークがない	実験室が狭い	特別のクラブ活動が必要	
生徒数が多い	補修ができない	患者が足りない	修繕のための予算がない	増築が必要	体育館の施設が良くない	学校の職員が足りない	方角室がない	図書室がない	図書室を広げた(4)	下水配管が悪くなった	生徒数が多いので故障が多い	実験室の材料が足りない	6才の生徒用プログラムが必要	
増築が必要(4)	最新の情報が入っていない	トイレが衛生的に良くない	修繕用の予算が少ない	机と椅子の質が良くない	体育館がない	掃除ににくい	金庫室が必要	休憩室がない	設備が悪くなった	屋根をよくする必要	化学室の機材が良くない			
新築が必要	外国語の授業の量を増やしたい	子供用のトイレが必要	生徒数が多いから予算が足りない	生徒数が多い	4つのクラスが同時に体育館を借り	故障が多い	補修できない	生徒数多い	一層の天井が崩れる					
教室が足りない	コンピューターがない(2)	生徒数が多いから残業が多い	通信施設が足りない		学校の中で自由時間を過ごすところがない	教室を修理しない	音楽室が必要	職員室が必要	汚損りあり					
第3シフトが6時40分に終わる	情報が入っていない	職員の事後との状況が良くない			体育館が欲しい	生徒数が多いので椅子がよく壊れる		3シフトで授業をやっている						
7才の子どもの帰宅時間が夜7時になる	特別クラスを作りたい	職員用の休憩室が必要			体育館を増築する必要がある	施設を全部交換する必要がある								
換気が良くない	視聴覚室がない	教室が衛生的に良くない												
クラブの活動が衛生的でない(3)	体育の施設を近代化する必要がある													
トイレが汚い(2)	機材が足りない(2)													
生徒数としてモンゴルが一番多い	最新の機材がない													
全国でも生徒が一番多い学校	コンピューターが欲しい													
職員室が整備されていない	特別教室を作りたい													
	インターネットとつながっていない													



オルホン第6番学校

日時 : 6月28日午後
 場所 : ダルハン第11学校
 参加者 : 校長 1
 先生 5
 職員 2
 生徒 3
 保護者 8
 バグ 2
 計 21



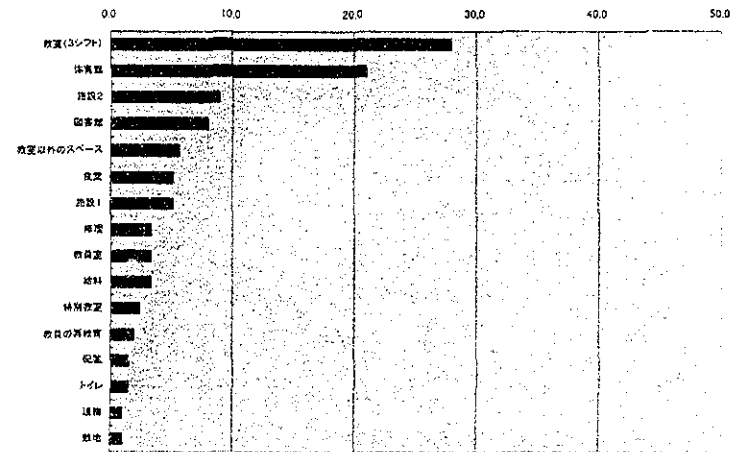
▲関係者へのインタビュー



▲参加者

問題グループ	教室(3シフト)	体育館	施設2	図書室	教室以外のスペース	食堂	施設1	修理	教員室	給料	特別教室	教員の再教育	配膳	トイレ	建物	敷地	計
カード数	90	45	19	17	12	11	11	7	7	7	5	4	3	3	2	2	215
%	27.9	20.9	8.8	7.9	5.8	5.1	5.1	3.3	3.3	3.3	2.3	1.9	1.4	1.4	0.9	0.9	100.0

教室が足りない(13)	体育館がない(15)	教室の施設が不十分	図書室がない(15)	教室の時に休む場所がない	食堂がない(1)	洗滌室がない	黒板の品質が悪い	教員室がない(6)	給料が少ない(5)	特別教室が必要(3)	教員の知識を広げる必要がある	車による事故の可能性	トイレが良くない(2)	学校用の服装ではない(2)	学校の敷地の平で時間を過ごす		
教室が狭い(3)	体育館が狭い(2)	教室の壁の色が良くない	図書室が整備されていない	自由時間を通じず場所が必要		洗面所の施設がほとんどない	図書を整理する必要	教員用の体育室がない	給料が足りない(2)	特別教室がない	再教育を受けた(1)(2)	第1住宅地区の女員の子どもが	トイレの水が流れない				
3シフトになっていない(4)	音楽室がない(14)	机と椅子が標準にあつてない	図書室に机と椅子がない	廊下が狭い		廊下がなく生徒が入りしにくい	机と椅子の質が悪くなった	黒板の質が悪い(2)		扶輪児童が必要	教員が足りない	手は遠くから通えない					
教室が狭く生徒の通学に良くない	音楽室が必要	机と椅子を壊やしたい															
先生が足りない	自由時間を通じずとろがない	机と椅子が足りない(2)															
近くまで授業がある(4)	廊下が広い(2)	生徒用の椅子と机が必要															
3番目のシフトを短くする必要がある	自由時間を通じずとろがない	椅子と机が標準にあつてない															
第1住宅地区に10年制の学校がない	クラブ活動ができ(3)	黒板の調子が良くない(3)															
1クラスの生徒数を少なくする必要がある	音楽室が必要	教室が整備されていない															
生徒数が多い	音楽室が欲しい	教室で勉強環境が良くない															
2シフトにしたい(2)	スポーツや文化的な活動ができ(4)																
3シフトの実施は困難(2)																	
3シフトをなくしたい																	
3シフトが多い(2)																	
ひとつのクラスの生徒数が多い																	
教室数を増やす必要がある																	
真面目に勉強する状況がない																	
担任の先生にあたる生徒数が多い																	
10年制にしたい(2)																	
この住宅地区にひとつの学校しかない																	
教室を増やす予算がない																	



オルホン第7新学校

日時 : 7月2日午後
 場所 : オルホン第7学校
 参加者 : 校長 1
 教職員 5
 生徒 4
 保護者 2
 バグ 1
 計 13



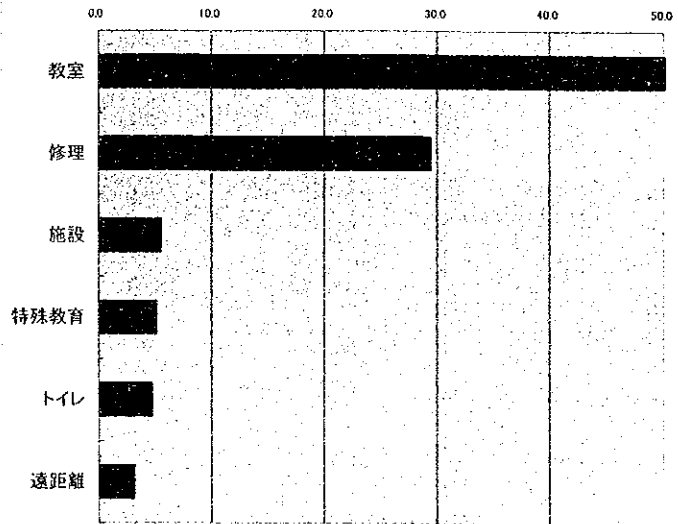
▲集会の様子



▲参加者

問題グループ	教室	修理	施設	特殊教育	トイレ	遠距離	計
カード数	133	75	14	13	12	8	255
%	52.2	29.4	5.5	5.1	4.7	3.1	100.0

教員が足りない(16)	汚染あり(14)	机と椅子が足りない	各種専用の教室が必要	教員用のトイレがない	5kmぐらい歩いて通う生徒がいる
自由時間を過ごす手段がない(6)	復旧が良くない	机と椅子の品質が良くない	監視者の設置が必要	学校でトイレが一方所しかない	交通機関がない(2)
保護室が必要(2)	換気が良くない(7)	机と椅子の品質が良くない	特殊教室が必要(6)	トイレが男女別になっていない	遠距離を歩いて通う生徒がいる
音楽室がない(14)	窓の枠に障子開け(3)	机と椅子が足りない	専門用の特殊教室が必要	トイレが足りない(3)	家が遠い
体育館がない(14)	復旧がなされていない	教科書が足りない	身体の不自由な人専用の設備がない	十分なトイレがない	池淵から引越してくる生徒数が増えている
廊下が狭い	床が揺れる	教員の人数が足りない	特殊教室がない(3)	トイレの問題は重大	毎年生徒の人数が増えている
図書室が必要(2)	天井が高い	机と椅子が足りない		トイレの水が濡れない(2)	生徒たちが遠くから歩いて通っている
図書室がない(13)	学校用の建物ではない(9)	机と椅子が足りない		トイレが良くない(2)	
教室が基準にあっていない	学校以外の目的で使うべき建物	机と椅子が基準にあっていない			
洋館室がない(2)	補修ができない	机がかなり古くなった			
職業室の機材が基準にあっていない	冬に寒い(12)	施設なし			
コンピューターが足りない	暖房が良くない	教科書が足りない			
ラジオカセットプレーヤーが足りない	暖房が良くない	近代的な施設がない			
音楽用の機材が足りない	建物の維持が良くない	扉幅が小さい			
美術室がない	自然照明が良くない				
料理調理用の設備がない	建物が整備されていない				
洋館室が必要	冬かなり寒い				
特別教室が足りない(6)	水の調達が大変				
教室が整備されていない	天井が高いために照明が足りない				
食堂用ではない部屋が食堂に転用されている	教室の照明が良くない(8)				
教室の暖房が良くない(2)	騒音の中で声がだまして聞こえにくい				
クラブの活動する場所がない(2)	運動場がない(2)				
労働特別教室がない	お湯が出ない				
保健室が狭い					
保健室がない					
音楽室がない(6)					
教室が狭い(5)					
教員用の設備がない(9)					
音楽室がない					
クロークなし(4)					
机と椅子が足りない					
補修室がない(4)					
女性更衣室がない					
休憩を過ごす場所がない					
倉庫がない					
各種専用の教室がない(2)					



オルホン第11番学校

日時 : 6月29日午後
 場所 : オルホン第11学校
 参加者 : 校長 1
 先生 2
 生徒 3
 保護者 2
 バグ 2
 計 10



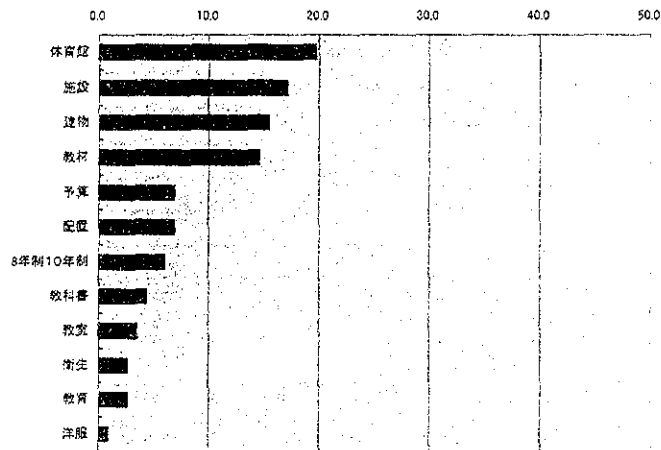
▲集会の様子



▲参加者

問題グループ	体育館	施設	建物	教材	予算	配置	8年制10年制	教科書	教室	衛生	教育	洋服	計
カード数	23	20	18	17	8	8	7	5	4	3	3	1	117
%	19.7	17.1	15.4	14.5	6.8	6.8	6.0	4.3	3.4	2.6	2.6	0.5	100.0

自由時間を過ごす部屋がない	音楽室が欲しい	建物の質が良い(2)	教材がない	教員の教材が足りない	教員と生徒が遠くから通っている(2)	寒がない(2)	教科書の質が良い(2)	教室が足りない(2)	学校の敷地の中が衛生的に良くない(2)	教員と生徒の関係がフレンドリーでない	生徒用のユニフォームが必要		
自由時間を過ごす部屋が必要	コンピューターがない	消化器がない	補修をする形跡がない	給料が足りない	ゲル地区に住んでいる生徒が多い	8年制にしたい(3)	教科書が足りない(4)	教室が勉強しにくい	学校に医者が必要	6才の生徒用教育プログラムが必要			
日本・会議室なし	外国語の本が少くない	補修をする形跡がない	黒板の調子が良くない	給料が少ない	保護者の生活が苦しい	中等学校にしたい		教室が狭い		教員と生徒が一緒に時間を過ごさない			
日本室がない	コンピューターがない	開いている部屋がない	黒板が良くない	予算が足りない	保護者のほとんどが共働き	10年制にしたい							
クラブ活動ができない	インターネットとつながっていない	建物が学校用ではない(3)	黒板が良く見えにくい場所にある	教員の社会保険がない	生活が苦しい家庭の子が多い								
体育館がない	施設が良い(3)	上水と下水の設備が悪くなった	部屋の臭いが強い	食堂が必要	貧しい家の子が多い								
音楽室と体育館が欲しい(4)	施設が特に足りない	下水配置が悪くなった	冬、断水が多クトイレが使えない	教員用のアパートがない(2)	苦しい生活をしている子が多い								
教室の床が抜ける	施設が少ない	下水と上水のシステムが良い	トイレの水が流れない										
クラブの活動ができない	机と椅子が古くなった	断水が多い	教室の中のラジエーターから水が漏れる	机と椅子が足りない(2)									
音楽室なし	教室の中の教材が足りない	増築の必要がある	机と椅子が足りない										
体育の授業の施設がない	電気の接続が悪い	教室が足りない	教材のサンプルがない										
音楽室が欲しい	職員用の部屋がない(2)	増築の必要がある	窓ガラスが割れている										
図書室の本数が少ない	床のしたにカビがはえている	学校の床を交換する必要がある	教室が整備されていない(2)										
図書室で本を読むことができない	机と椅子が古くなった	ドアを強く閉めると壁が剥れる	窓が開かない										
図書室がない	学校のトイレが汚い	雨漏りが多い	教室のドアの壁が開かなくなる										
図書室が欲しい	クローカーがない												
	教室の施設が足りない												



JICA